

**WAKO
WAKU
WAKU
WORK**

目次

【ワーク手法1】	-----	4
カード（ふせん）を使った アイデア出しと整理		
【ワーク手法2】	-----	8
ファシリテーショングラフィック		
【ワーク手法3】	-----	12
旗上げアンケート		
【ワーク手法4】	-----	16
円形ダンボールを使ってみよう		
【ワーク手法5】	-----	20
メンバーを入れ替えながらワークする		
【ワーク手法6】	-----	24
私がまちにできること （自己紹介と交流）		
【ワーク手法 応用編】	-----	28
まちづくり人生ゲーム		



ワーク手法とは、集まった人たちが、楽しく和やかな雰囲気の中で、話し合いを上手にまとめていく方法です。充実した議論となるように進行を工夫したり、簡単な道具を使ったりします。参加者同士の共通の作業や体験を通して、意識の醸成や、他者への理解を深めます。

次のページからは、あなたが周りの人と一緒になって和光市のまちづくりを考える上で、意見を共有したり、まとめたりするためのワーク手法をいくつかご紹介します。

和光市は、このまちに住んでいる人、このまちを訪れる人、このまちで働く人など、たくさんの人によって支えられています。1人ではなかなか思いつかない、まちづくりのアイデアや手がかりも、みんなと一緒に思い浮かべることができるかもしれません。ぜひ、お友達やご近所の人を誘ってトライしてみてください。

ワーク手法や参加人数によって、準備する道具の種類、かかる時間、会場の設営スタイルなどが変わってきます。本誌を参考にしながら、それぞれの環境に合わせて、アレンジをしてみてください。

もちろん、和光市のまちづくりだけでなく、色々な場面で使える方法でもあります。ぜひ、活用してください。

ワークに使う基本的な道具セット。(カード、マジック、サインペン、テープ、模造紙、名札)



道具

カード (ふせん)	5~20枚 /人	<ul style="list-style-type: none"> 貼って剥がせる市販の商品 色の違う物を用意して使い分けても良い
マジック	1セット /グループ	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの色を揃えておくと作業しやすい
サインペン	1本/人	<ul style="list-style-type: none"> ふせんに記入する時に使用する
模造紙	1~2枚 /グループ	<ul style="list-style-type: none"> 大きく使いたいときは、2枚をテープでつなぐと良い マジックなどが裏に染み付かないように注意
テープ	1個	<ul style="list-style-type: none"> カードや模造紙を固定するのに使う
名札	1個/人	<ul style="list-style-type: none"> はじめて会うメンバーの場合は名札を用意 参加者はマジックで自分の名前を書く 本名だけでなくニックネームも可能 作業中は名札に書いてある名前呼び合う

役割分担

ファシリテーター	1人	<ul style="list-style-type: none"> 議論がスムーズに進行するようにサポートする
----------	----	---

ねらい

意見やアイデアを口に出すのではなく、まずカードに書き出し、みんなで話し合いながら整理することで、他者や全体の意見を把握し、新たな発見を生み出すことができます。

参加者は1つのカードに1つの意見を記入します。カードは発表しながら出し、みんなで整理していきます。

ファシリテーターと呼ばれる進行役を決めて、進めても良いです。

カード(ふせん)を使った アイデア出しと整理

ワーク手法1

(50~90分)



カードに意見を書きながら出していく。
文字は参加者に読めるように大きく書く。

STEP 4 発表（1チーム3～5分）

- チームごとに全体に向けて発表する。（1チームの場合は、チーム内でふりかえりとまとめをする）



テーブルを取り囲んで議論する。一人だけが話し続けないように注意する。



カードに意見やアイデアを書く。（1つのカードに複数の意見を書かない）



似たカードはグループ化し、グループ名をつける。また、グループ同士の関係を整理する。

🕒 進め方

準備

- 3～7人程度でチームを作り、模造紙を取り囲む。
- テーマ（例：和光の未来をイメージしてみよう）を1つ決める。
- 模造紙にテーマ、日付、場所、参加人数などを記入する。（あとで他の人が何の議論をしたか分かるようにしておく）

STEP 1 カード記入（5～10分）

- カードの記入時間をとる。
- カードにはなるべくたくさんのアイデアを書き出す。

STEP 2 カード発表と整理（15～30分）

- 手持ちのカードを発表しながら、順番に出していく。似た意見のカードは近くに寄せていく。
- 全員のカードが出し終わるまで続ける。

STEP 3 発表（20～30分）

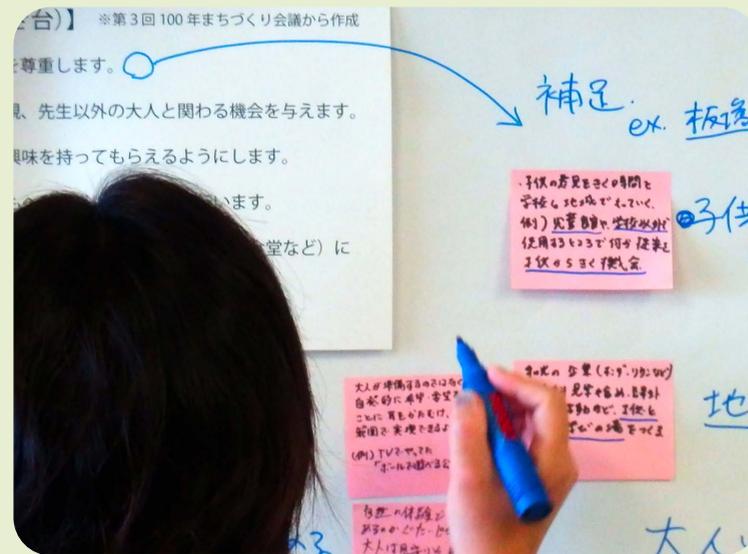
- みんなで話し合い、手を動かしながら意見の近いものや関連のあるものはグループ化して、囲み線やタイトルをマジックで書く。矢印などを使ってグループ同士の関係も表記する。
- 追加の意見があれば新たなカードに書き込み、関連する場所に貼る。
- 最後にチーム名やタイトルを決めて、大きく書く。
- 発表者や発表方法を決める。

ファシリテーションングラフィック

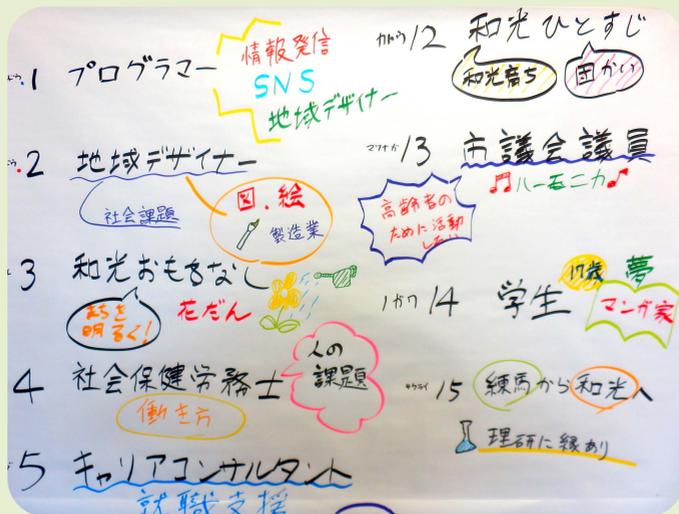
ねらい

ファシリテーションングラフィック (FG) とは、模造紙などに、出された意見をその場で書き出し、絵や図も使いながら、参加者の全意見を1枚に見やすくまとめる方法です。

どのような意見が出ているかを即時に、また視覚的に共有することで、論点が分かりやすくなり、次の議論が活性化していきます。



参加者の発言内容を簡単なキーワードなどで書き、議論の経過を表現する。



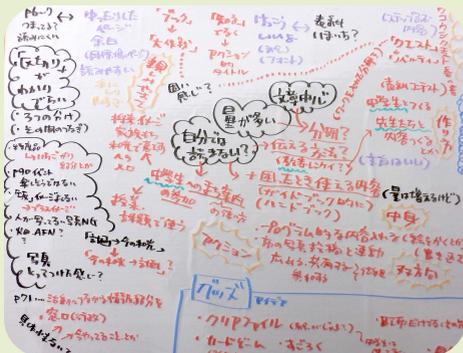
イラストや図などを活用して、まとめていく。

道具

模造紙	1〜3枚 /グループ	<ul style="list-style-type: none"> 全員が見やすいように壁に貼る (ホワイトボードやパネルを使っても良い) (テーブルに置いても良い) まとめて用意して、めくって使う マジックなどが裏に染み付かないように注意
マジック	1セット /グループ	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの色を揃えておくと絵や図の表現が広がる
テープ	1個	<ul style="list-style-type: none"> カードや模造紙を固定するのに使う 模造紙を大きく使いたいときは、2枚をテープでつなぐと良い

役割分担

ファシリテーター	1人	<ul style="list-style-type: none"> 議論がスムーズに進行するようにサポートする
書きとめ役	1人	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の意見を模造紙に書きとめる



参加者の発言内容を簡単なキーワードなどで書き、議論の経過を表現する。



大きめの紙にキーワードを書き出し、大人数の会場全体でまとめをしていく方法もある。市販のどこでも貼れるホワイトボードを活用しても良い。

☆パネル資料を参考にしよう

ワークの前後や最中に参加者が参考情報を得られるように、関係する資料をパネル形式で用意しておく、理解が深まり、議論が活発になります。

アイデア出しに役立ちそうな資料を拡大してパネル化したり、壁に貼り出したりします。



会場の入口に展示をして入場時や開始前に見てもらおう。



ワーク作業のそばに置いておくと役立つ。

🕒 進め方

準備

- ホワイトボードや壁に模造紙を貼り付ける。(全員が見やすい位置に)
- テーマ、日付、場所、参加者名などを記入しておく。

STEP 1 ディスカッション (20~40分)

- 3~10人程度でチームを作り、書きとめ役を1人決める。
- テーマについて自由な意見出し、フリートーク、ディスカッションなどを行う。
- 書きとめ役は、模造紙に発言内容やキーワードを簡潔に書きとめていく。
- 意見同士の関係などをマジックを使い、囲みや矢印などで記入していく。意見の内容が分かりやすくなるようマジックで色を使い分け、マークやイラストなどを書き加えていく。
- 途中でブレイクタイムを取り、書きとめ役が議論の経過 (FGの内容) を紹介する。その後、ディスカッションを続ける。
- ファシリテーターと呼ばれる進行役を決めても良い。(書きとめ役が兼任しても良い)

STEP 2 発表と共有 (1チーム3~5分)

- 議論が終わったらチーム内でFGの共有をする。
- チームごとに全体に向けて発表する。(1チームの場合は、チーム内でふりかえりとまとめをする)



司会が質問をアナウンスしたら、自分の考えを旗を高く上げて表明する。

📎 道具

旗	1セット/人	・ 1セット (1～5番の小旗)
設問集	1枚/人	・ 参加者1人1人に配る ・ プロジェクターで会場に映し出し ても良い ・ 落語のめくり台の様に見せても良 い
集計表	1枚	・ 大判で貼り出しておき、そこに結 果を記入する

👤 役割分担

司会	1人	・ 設問を読み上げたり、参加者にコメント を伺う
集計係	2～3人	・ 旗上げの結果を数え、表などに記録する

🎯 ねらい

参加者全員の意見や評価の傾向を、その場ですぐに共有するには、旗上げアンケートという方法が役に立ちます。ワークの前に行うことで、議論の活性化を図ることもできます。ワークの最中に点数評価（五段階評価）を行うことにも活用できます。

参加者には1～5番までの小旗を1セットずつ配ります。あらかじめ5肢択一の設問を複数用意しておき、司会の質問に参加者が旗を上げながら、その場で集計を行っていきます。

大人数でも、会場全体の意見の様子がリアルタイムで参加者一人一人に伝わります。

旗上げアンケート

ワーク手法3

(20～40分)



旗上げアンケート用の5色の小旗セット。



司会が質問をアナウンスしたら自分の考えを旗を高く上げて表明する。周りがどの旗を上げているか見渡してみる。

			①	②	③	④	⑤
1	小学生	遊び場	20	3	6	3	2
2	中学生	課題研究	5	5	8	13	3
3	高校生	進路選択	0	13	18	0	3
4	24才	故郷紹介	7	8	5	10	4
5	28才	出産	4	7	8	8	7
6	31才	育児	3	10	8	2	11
7	34才	新居	1	15	6	8	4

旗が上がったら、集計係は会場の結果を模造紙などに記録する。1番多い番号には色をつけておくと分かりやすい。

🕒 進め方

準備

- あらかじめ、検討テーマに関する複数の設問を用意しておく。(5肢択一とし、選択肢の5番目は「その他」にしておく)
- 質問と選択肢は、参加者の手元に配布するか、会場に写し出す。
- 参加者には1～5番までの小旗を1セット配る。

STEP 1 旗上げアンケート (15～30分)

- 司会が質問と5つの選択肢を読み上げる。
- 参加者各自が自分の考えとして該当する番号の旗を上げる。
- 司会は、旗上げ結果の概略を伝える。(多い番号をアナウンスするなど) (また、「その他」を上げた参加者に適宜コメントをもらう)
- 集計係は、上げられた番号ごとにカウントし、集計表に記録する。
- 設問の数だけSTEP 1をくりかえす。

STEP 2 ふりかえり (5～10分)

- 全ての設問が終わったら、司会が結果をふりかえる。

円形ダンボールを使ってみよう

ねらい

アイスブレイク（最初の緊張をときほぐす時間帯）や、楽しい雰囲気をつくりながらみんなで意見を出してまとめていく方法として、円形ダンボールを使う方法があります。

膝の上にダンボールをのせて囲むことで、一体感や参加意識が芽生えます。



椅子に座った参加者の膝の上に円形ダンボールをのせる。



円形ダンボールは通信販売で購入でき、円形模造紙とセットになっている。

 道具

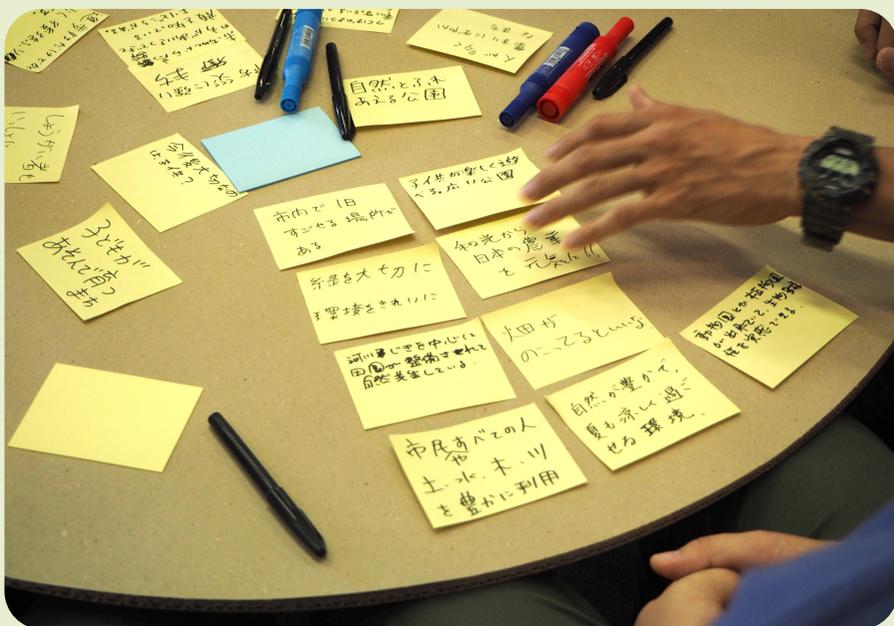
カード (ふせん)	5〜20枚 /人	・貼って剥がせる市販の商品 ・色の違う物を用意して使い分けても良い
サインペン	1本/人	・ふせんに記入する時に使用する
マジック	1セット /グループ	・いくつかの色を揃えておくと作業しやすい
円形 ダンボール	1枚 /グループ	・付属している円形模造紙をそのまま使う（円形ダンボールは次回も新しい円形模造紙を貼って使うので保管しておく） ・通信販売で購入可能
椅子	1脚/人	・円になって椅子に座り、円形ダンボールを膝にのせる
テープ	1個	・ふせんや模造紙を固定するのに使う

 役割分担

司会	1人	・設問を読み上げたり、参加者にコメントを伺う
----	----	------------------------



円形ダンボールの上に自分の意見を書いたふせんを貼り出す。



貼り出したふせんをグループ化したり、マジックで関係性を表して、まとめる。

🕒 進め方

準備

- グループごとに、参加者3～6名が椅子を持って集まり、膝を突き合わせて輪になって座る。
- 膝の上に円形ダンボール（円形模造紙つき）を置き、カード（ふせん）、サインペン、マジックなどの道具を上のにせる。

STEP 1 円形ダンボールを使った話し合い・意見出し（15～30分）

- テーマについて自由な話し合いや意見出しを進める。
- 意見は各自がカード（ふせん）に書き出し、発表しながら円形ダンボールの上に貼り出していく。（参加者の発言内容をファシリテーターがカードに書きとめて貼る方法や、書きとめ役が円形ダンボールにマジックで直接書きとめていく FG 手法でも良い）
- 意見の貼り出しや書きとめは、円形ダンボールを回転させながら進めて、360度全方向から見えるようにまとめる。
- なるべく、参加者全員で手を動かし、記入やまとめをしていく。

STEP 2 発表（15～25分）

- グループごとに結果を全体に向けて発表する。
- 円形ダンボールをそのまま発表ステージに持っていき、発表に活用する。

メンバーを入れ替えながら ワークする

ねらい

参加者が多い場合には、一般的に5〜7名ほどのグループに分かれてディスカッションをしますが、途中で時間を区切って、グループの顔ぶれをシャッフルする方法もあります。

グループメンバーが入れ替わることで、より多様な意見に触れることができ、議論の活性化が図れます。



グループごとに1人のメンバーを残して他のメンバーは違うグループに移動し、ディスカッションを行う。



グループ内で10〜20分ディスカッションを行う。

道具

カード (ふせん)	5〜20枚 /人	・大きく使いたいときは、2枚をテープでつなぐと良い
サインペン	1本/人	・ふせんに記入する時に使用する
マジック	1セット /グループ	・いくつかの色を揃えておくと作業しやすい
模造紙	1枚 /グループ	・全員が見やすいように壁に貼る(ホワイトボードやパネルを使っても良い)(テーブルに置いても良い) ・まとめて用意して、めくって使う ・マジックなどが裏に染み付かないように注意

役割分担

・司会	1人	・グループメンバー入れ替えの案内やタイムキーパーとして全体をサポートする
-----	----	--------------------------------------

- 新しいメンバーで続きの話し合いをはじめ、追加でカード（ふせん）を書き出して模造紙への貼り出しを進める。
- STEP 2～3を数回程度くりかえす。

STEP 4 発表（10～20分）

- 各テーブルでの検討結果（意見の積み重ね結果）を、テーブルごとに全体に発表する。



会場にいくつかのテーマ別コーナーをつくり、そこに興味のある人が集まり議論・検討をする。



入れ替わったメンバーで議論の続きを行う。

🕒 進め方

準備

- 5～7人程度でチームを作り、テーブルを取り囲む。カード（ふせん）、マジック、サインペン、模造紙などを置く。

STEP 1 グループディスカッション（10～20分）

- 決められたテーマについて、グループ内で意見を出し合い、カード（ふせん）に書いて貼る。
- 模造紙に直接書きこむなど、検討記録をつくっていく。

STEP 2 入れ替えタイム（2分）

- メンバーの入れ替えタイムをとる。
- テーブルに残る1名を決める。（ファシリテーターが残る、くじやジャンケンで決めるなど）
- 他のメンバーは、好きなテーブルや、指示されたテーブルへ移動する。
- テーブルごとに異なる検討テーマを設定し、好きなテーマのテーブルに移動する方法でも良い。
- 各テーブルの人数が偏らないよう注意する。

STEP 3 新しいメンバーでディスカッション（10～20分）

- 新しいメンバーで、各テーブルのディスカッションを再開する。
- テーブルに残った参加者は、新しいメンバーに、話し合いの経過（模造紙記録の内容）を紹介する。

私がまちにできる(1)と
(自己紹介と交流)

ねらい

市民一人一人がまちづくりのアクションを起こすためには、自分が地域のためにできることを考え、周りの人に伝え、それをきっかけに交流の輪を広げていくという最初の小さな一歩が大切です。

私がまちにできることカード(自己PRカード)を事前に記入し、参加者が輪になって、司会の進行に従い、発表したい人がPRをし、まちづくりの小さな芽・意志を共有しましょう。それをきっかけに交流を進め、連携を考えていきましょう。



みんなで輪になって、司会の進行のもと、自己PRを順番に進めていく。

自己PRカード

お名前(ニックネームも可)

和光太郎

①自己PR あなたの得意なこと、できること、活動していること等をお書きください。

学生時代は美術部
でした。絵を描くのが
得意です! 😊

②この自己PRを... 1つ選んで○をしてください。

紹介したい / どちらでも良い / 特に紹介しなくて良い

受付でカードを受け取り、事前に記入しておく。ワーク開始時に司会に渡す。簡単な名前紹介だけでも良い、たくさんPRしたい人は多めに話しても良い。

道具

私がまちにできることカード(自己PRカード)	1枚 / 人	<ul style="list-style-type: none"> 自分が得意なことやまちのためにできることを紹介する記入欄を設ける 自己PRを紹介したいかどうかを○印をつけて確認する欄を設ける
サインペン	1本 / 人	<ul style="list-style-type: none"> カードを記入してもらうために、受付に置いておく

役割分担

司会	1人	<ul style="list-style-type: none"> 参加者から受け取った自己PRカードをもとにPR内容の近い人同士のマッチングやコーディネートを行う
----	----	--

🕒 進め方

準備

- 参加者は受付で「私がまちにできることカード」を受け取り、記入して司会に渡す。
- 司会はカード全てに目を通し、整理しておく。
- 参加者全員で輪になって座る。

STEP 1 輪になって自己PR（10～30分）

- 司会はカードのうち、PR希望者を適宜指名する。
- 指名された参加者は1～2分程度で「私ができること」を発表する。
- PR希望者全員の発表が終わったら、まだPRしていない参加者の中で自己紹介したい人がいないかを尋ね、一言でもお話ししてみないかと促す。
- 発表済みの参加者で、さらに追加で話したい人には話してもらおう。また、関連しそうな参加者同士の意見交換や情報交流を促す。

STEP 2 ふりかえりのまとめ（3～5分）

- 司会が、今日あがった話題、テーマ、生まれた交流など、ワークの成果をふりかえる。
- そのまま解散する場合は、終了後に参加者同士が交流できる場と時間を少し作っておく。
- このワークをアイスブレイクとして、他のワークプログラムに繋げることも可能。（連続ワークの最終回にまとめや意志発表として、自己PRを行うことも効果的である）



自分の特技や趣味について、楽しく話すことで交流が生まれる。



地域の問題やボランティア活動について話すことで課題を共有する。

道具

人生ゲームカード	1セット / 人	<ul style="list-style-type: none"> ・1セット15～20枚程度（クリップでまとめておく） ・あらかじめカード内容を検討し、カードセットを作成する。（15～20の和光市における人生の場面を設定し、カードの選択肢にはまちの特徴や課題をバランスよく入れ込む） ・和光市におけるカード例が本誌（P34～37）に付いています
旗	1セット / 人	<ul style="list-style-type: none"> ・1セット（1～5番の小旗）
集計表	1枚	<ul style="list-style-type: none"> ・上げられた旗の数を集計係がカウントし、集計表に人数を書き込む
ふせん	5～20枚 / 人	<ul style="list-style-type: none"> ・貼って剥がせる市販の商品 ・色の違う物を用意して使い分けても良い
サインペン	1本 / 人	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを記入してもらうために、受付に置いておく
マジック	1セット / グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの色を揃えておくと作業しやすい
模造紙	1～2枚 / グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく使いたいときは、2枚をテープでつなぐと良い ・マジックなどが裏に染み付かないように注意
テープ	1個	<ul style="list-style-type: none"> ・カードや模造紙を固定するのに使う

役割分担

司会	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・設問を読み上げたり、参加者にコメントを伺う
集計係	2～3人	<ul style="list-style-type: none"> ・旗上げの結果を数え、表などに記録する

ねらい

まちづくり人生ゲームとは、人生の様々な局面（進学、就職、結婚、出産、子育て、定年退職など）における選択肢をあらかじめカードとして用意し、それぞれの場面における自分自身の選択を考えながら、まちづくりの課題や方向性を探るものです。

人生のさまざまな節目において選択肢に悩みながら、まちと自分にどのような関わりがあるかを考えることで、参加者が身近な問題としてまちを捉えることをねらいとしています。また、ゲーム性や物語性が備わっているため、固苦しい内容を和らげ、楽しく参加できるプログラムになっています。



和光市オリジナルまちづくり人生ゲームカード（15枚で1セット）

まちづくり人生ゲーム

ワーク手法 応用編

（70～120分）

- 最後のカード（伝えたいことば）と合わせて4枚を次のプログラムで使うため、その他のカードや旗は片付けておく。
- この時間の間に、司会は旗上げアンケート集計結果を紹介しても良い。

STEP 3 グループ作業（30～50分）

- 5～7人のグループをつくる。
- グループ内で各自が選んだ4枚のカードを、順次発表しながら、模造紙上に整理していく。（最後のカード「伝えたい言葉」は自己紹介に使っても良い）
- カードの分類や関係を全員で考えながら、追加のふせん記入や書き込みをし、まちの課題やまちづくりのテーマを整理する。

STEP 4 発表（15～25分）

- グループごとに模造紙にまとめた検討結果を全体に発表する。



司会の読み上げる質問に従って、カードに丸をつけて旗を上げる。

🕒 進め方

準備

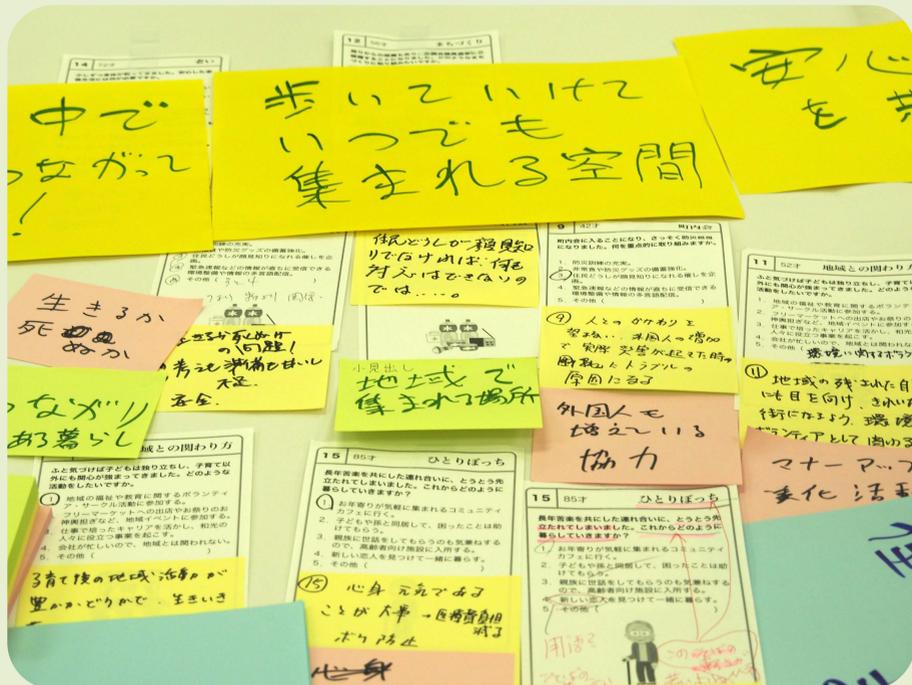
- 和光市で一生を暮らす上で考えられる人生の節目を、質問として15問程設定する。それぞれの質問には5つの選択肢を用意する。
- 人生ゲームカードにはイメージイラストを載せる。
- 人数分のセットを用意する。（1セット15～20枚程度）

STEP 1 旗上げアンケート（20～30分）

- 司会は1枚目のカード内容（テーマ・年齢・質問・選択肢）を読み上げる。
- 参加者は5つの選択肢の中から自分の考えに最も近いものを選び、カードに○印をつけ、その番号の旗を高く上げる。
- 司会は旗上げ結果についてコメントする（何番が一番多いかなど）。また、「その他」に上げた1～2名に内容を紹介してもらう。
- 集計係（複数名）が、旗の番号をカウントし、会場全体に見える集計表に書き込む。

STEP 2 カード選び（10分）

- カードの中で選択に迷った質問や、重要なテーマが含まれていると思うカードを3枚選ぶ。また、そのカードを選んだ理由を黄色いふせんに書き、カードの下に貼る。



カードを選んだ理由をふせんに書き、グループ内で発表しながら議論や整理をしていく。最後に新しく意見やキーワードを追加していき、まとめる。

		①	②	③	④	⑤	
1	小学生	遊び場	20	3	6	3	2
2	中学生	課題研究	5	5	8	13	3
3	高校生	進路選択	0	13	18	0	3
24才		故郷紹介	7	8	5	10	4
28才		出産	4	7	8	8	7
31才		育児	3	10	8	2	11
34才		新居	1	15	6	8	4
37才		通勤	9	8	6	8	4

上げられた旗の数を集計係がカウントし、集計表にすばやく書き込む。

チームごとにまとめた結果を全体に発表する。模造紙を持つ人、読み上げる人などで、協力して発表する。



それぞれが発表しながら議論を進める。

5 28才 **出産**

見事にゴールイン！ 2人の新婚生活も楽しいですが、そろそろ子どもを産みたいと考えています。どのようなサポートが必要ですか。

1. 働き先の理解やサポート。
2. 産婦人科や小児科などの医療環境の充実。
3. 保育園や学童の充実。
4. パートナーの理解と協力。
5. その他 ()



6 31才 **育児**

子育て中の私は不満がたまりにたまってカリカリしています。なぜかわかりますか？

1. ママ友パパ友がなかなかできない。
2. 子育て支援の仕組みがわかりにくいし、手続きも面倒。
3. 仕事に復帰したいが、適当な仕事がないし、タイミングも難しい。
4. ベビーカーを押せない凸凹道が多すぎ！
5. その他 ()



1 小学生 **遊び場**

小学生のあなたは、今日は大の仲良しのさつきちゃんと遊ぶ約束をしています。さあどこで遊びますか。

1. 公園や河川敷で遊ぶ。
2. 家の前の道路でボール遊びをする。
3. 児童館で遊ぶ。
4. 家でテレビゲームやスマホで遊ぶ。
5. その他 ()



2 中学生 **課題研究**

中学校の授業の一環で、チームで課題研究に取り組むことになりました。何について調べますか。

1. ゴミのポイ捨てやリサイクルについて。
2. 道路の渋滞、排ガスや騒音について。
3. 屋敷林や農地などの自然について。
4. 湧き水や白子川・越戸川などの水環境について。
5. その他 ()



7 34才 **新居**

子どもが少し大きくなり、今の家では手狭になってきました。どのような住まい方をしたいですか。

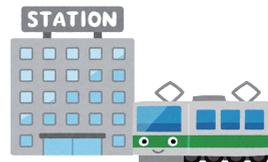
1. 和光の実家で親・自分・子どもの三世代で、一つ屋根の下に住む。
2. 和光に住むが、親とは別居する。
3. 和光よりも地価の安いまちに引っ越す。
4. 手頃な物件がないので、しばらく我慢する。
5. その他 ()



8 38才 **通勤**

お仕事お疲れ様です。毎日の通勤がもっと快適なるにはどうしたら良いですか。

1. 坂道が多いので、駅と各所を結ぶバスの増便やデマンドタクシーの普及。
2. 駅周辺の朝・夕の混雑解消。
3. マナーの悪い自転車をなくす。
4. 街灯の少ない夜道を明るくする。
5. その他 ()



3 高校生 **進路選択**

高校を卒業します。これからの進路は、どのような道に進みますか。

1. 和光市周辺で仕事を見つけたい。
2. 通える範囲で進学したい。
3. 海外留学したい。
4. 就職して新しい街に引っ越したい。
5. その他 ()



4 24才 **故郷紹介**

よそのまちに住む大好きな恋人に、我がまち和光市を初めて紹介します。どこを案内しますか。

1. 和光樹林公園や柿ノ木坂湧水公園などの自然をめぐる。
2. 新倉ふるさと民家園や長照寺などの歴史文化をめぐる。
3. ホンダや理研の施設を紹介する。
4. 新倉うどんや鍋グランプリなどグルメを味わう。
5. その他 ()



13 65才 **第2の人生**

定年を迎え、この先の第2の人生ステージをどのように過ごしますか。

1. 孫と楽しく過ごしたい。
2. シルバー人材センターに登録するなど、地域のためになることをしたい。
3. まだまだ働きたい。働き続けなければならない。
4. 新しい趣味や特技を見つけたい。
5. その他 ()



14 72才 **老い**

少しずつ身体が弱ってきました。安心した老後生活には何が必要ですか。

1. 地域に頼れる医療機関やお医者さんがいること。
2. 身体が弱っても移動手段が確保されていること。
3. 介護福祉サービスの充実。
4. 日用品や生鮮食品を購入するための移動販売車や宅配といった新しい買い物環境。
5. その他 ()



9 42才 **町内会**

町内会に入ることになり、さっそく防災担当になりました。何を重点的に取り組みますか。

1. 防災訓練の充実。
2. 非常食や防災グッズの備蓄強化。
3. 住民どうしが顔見知りになれる催しを企画。
4. 緊急速報などの情報が直ちに受信できる環境整備や情報の多言語配信。
5. その他 ()



10 47才 **休日の過ごし方**

子どもがだいふく大きくなり、休日を夫婦や友達と楽しめるようになりました。どのように過ごしますか。

1. 電車で池袋や渋谷などにお出かけする。
2. 市内のおいしい飲食店に行く。
3. 和光スポーツアイランドや図書館などの地元の文化施設で楽しむ。
4. まち歩きをしたり、健康づくりをする。
5. その他 ()



15 85才 **ひとりぼっち**

長年苦楽を共にした連れ合いに、とうとう先立たれてしまいました。これからどのように暮らしていきますか？

1. お年寄りが気軽に集まれるコミュニティカフェに行く。
2. 子どもや孫と同居して、困ったことは助けてもらう。
3. 親族に世話をしてもらうのも気兼ねするので、高齢者向け施設に入所する。
4. 新しい恋人を見つけて一緒に暮らす。
5. その他 ()



11 52才 **伝えたいことば**

いよいよお別れの時です。和光市に住む後輩たちに、最後に何を伝えたいですか？

ご自由にお書きください。



11 52才 **地域との関わり方**

ふと気づけば子どもは独り立ちし、子育て以外にも関心が強まってきました。どのような活動をしたいですか。

1. 地域の福祉や教育に関するボランティア・サークル活動に参加する。
2. フリーマーケットへの出店やお祭りのお神輿担ぎなど、地域イベントに参加する。
3. 仕事で培ったキャリアを活かし、和光の人々に役立つ事業を起こす。
4. 会社が忙しいので、地域とは関われない。
5. その他 ()



12 56才 **まちづくり**

周りからの推薦もあり、市議会議員選挙に立候補することになりました。どのようなまちづくりに取り組みたいですか。

1. 安全な道路整備など都市インフラの充実。
2. 生きる力・学ぶ力を育む教育の充実。
3. 和光ブランドを強化して、観光PRや見所づくりに力を入れる。
4. 健康づくりや医療福祉にもっと予算をつける。
5. その他 ()

